

中郡卓球協会

創立 昭和五十七年五月

中郡卓球協会が無かった時代

私が国府中学校の教員として赴任したのが昭和51年で、昭全日本卓球選手権カデットの部県予選に参加するのに、支部協会がないため平塚在住の当時県理事長の沢野さんに電話をしたところ、平塚・国府中で出場させて頂きました。書類も書いて頂き、大変お世話になりました。

坂口博泰氏



中郡卓球協会の産みの親である坂口氏は、理事長を6年と会長を25年勤め、文字通り中郡卓球協会の黒柱であった。残念ながら今年(平成25年)1月に逝去されました。神奈川県教職員連盟の会長もされており、今年4月に平塚で開かれた第16回全国教職員ベテラン卓球大会に臨めなかったことは大変残念なことでした。坂口氏の意志を継いで中郡卓球協会を小さくてもきざりと光る協会にしていかなければと思います。

西湘オープン卓球大会

中郡卓球協会を発足するにあたり、まず資金を集めようという坂口氏の提案により、TSPの協力を仰ぎながら、西湘オープン卓球大会を昭和57年3月28日に第一回を開催しました。

会場は、第1回平塚の日本専売公社体育館、2回から15回は平塚見附台体育館、16回から23回は見附台体育館と平塚市立江陽中学校の体育館の2会場、24回と25回はひらかアリーナと江陽中体育館の2会場、26回以降はひらかアリーナを2日使用することとなりました。

第1回は、小学生男女、中学1年生男女、中学2年生男女、一般男子の8種目の個人戦でしたが、第2回では壮年男女(36才以上)を、第3回でミドル男女(46才以上)を、第10回にはシニア男女(56才以上)を追加し、毎年のように参加してくれる選手の年齢の上昇に合わせるように増えていきました。さらに、第18回からゴールドの部(66才以上)を男一女一緒で、第22回にはダイヤモンドの部を男子は76才以上、女子は71才以上の条件で男女一緒の部として

追加しました。第25回からはゴールドの部を男女別に分けて行うことになり、第26回からは小学生を低学年と高学年に分け、巨大化した一般男子の部もI部とII部に分けて行いました。来年度の第33回からはダイヤモンドの部も男女別の76才以上として行う予定で種目数はなんと21種目に広がり、日本に誇れる巨大オープン卓球大会となりました。

現在、県外の小学校に在籍する選手で小学生の部に参加する選手と、ダイヤモンドの部に参加する選手の参加料は無料としています。ダイヤモンドの部は長寿のお祝いとして考えています。また、回数が伸びるにつれて選手の参加数も順調に増加し、最近は二日間で二〇〇人以上の選手が、関東一円十静岡はもとより、時には愛知、長野、大阪、京都、福島、北海道、四国からも参加して頂きました。大変有難いことです。

特徴は賞品にも表れています。普通の試合ではベスト4に入らないと賞品はゲットできませんが、部の参加人数によって、ベスト8でタオル、ベスト16で靴下を出しています。かつては、抽選でラッキー賞も出していました。現在は、時間を取られしてしまうのでおこなっていません。西湘オープン卓球大会のキャッチフレーズは「家族三代で参加出来

る」と「初心者から世界代表までの2つです。これからも楽しく熱い試合ができる場を提供していきたいと思っています。

サマーフェスティバル

最初は中郡総体として位置づけで個人戦を行っていました。昭和58年〜62年は一般男女と壮年男子の個人戦を、昭和63年〜平成6年は一般男女ともI部・II部制で行いました。平成7年よりサマーフェスティバルと名前を改め、抽選で団体を組み楽しく、試合をする形式となりました。最初は3人か4人で4S1Wの団体戦、平成20年より3人か4人で2S1Wの団体戦となり現在に至っています。チームの力が均等になるように、参加する選手を4段階に分けてから抽選しています。また、参加賞は靴下となっています。

中学生は昭和57年より全日本卓球選手権大会カデットの部の県予選のさらに中郡予選の位置づけでカデットの部男女を行っています。現在団体戦は中郡に登録してあれば参加出来ますが、ホープスの部とカデットの部の出場資格は、中郡の小学校・中学校の在籍者もしくは、中郡卓球協会を経て日本卓球協会に登録した者となっています。

同時に高校生+中学3年生でジ

ユニアの部男女個人戦も行っていますが、平成13年より、高校生と中学3年生は、団体戦に出場することとなりました。

中郡卓球選手権大会団体戦の部

第1回は昭和57年12月に、各チーム1チーム参加の団体戦と個人戦を行いました。第2回は昭和59年2月に行い、それ以降は2月に固定されました。男子優勝チームは大磯体協が6度優勝で最多。教員クラブとスマッシュピンプンは5度優勝です。女子を見てみると、大磯クラブが12度の優勝を飾り最多。ふじみクラブが8度の優勝で続いています。

途中からは優勝チーム1人1人にお米5kgを渡すようになりました。ただ、5kgを10袋運ぶのはものすごく大変なので、昨年度第31回は優勝賞品は、ユニフォームを渡しました。

西湘オープン中学生団体の部

西湘オープンの中学生団体の部を昭和59年6月に6単1複の形式で始めました。総合力があるチームが勝つ方式として注目されました。回数は西湘オープン本体の回数と同じにしました。平成2年より11月開催となり、県大会へ向けての新チームの試金石となりました。卓球人口

が減少気味の時期となり、平成4年より4単1複の形式となりました。一度開催した後、途絶えていた小学生団体の部も平成24度よりひらつかアリーナで中学生団体と同時にこなっています。方式は3人編成の5シングルスです。

中郡卓球選手権大会ダブルスの部

団体戦の次にダブルスを昭和60年11月に始めました。中郡卓球協会主催、二宮町卓球協会主管という形で始めました。二宮町立体育館を使用し、リーグ戦を行ってからのトーナメント形式。最近は参加賞としていただけるあんパンが好評です。

中郡卓球選手権大会シングルの部

二宮町でダブルスを始めたので、大磯町卓球協会主管でシングルスを担当しようと、ダブルスの翌年の昭和61年6月に第一回を開催しました。基本的に会場は国府中学校ですが、途中で何回かは国府実修学校(現おおいそ学園)の体育館も借りて2会場で開催したこともあります。

男子で三連覇をした選手は西河さんと鈴木さん、三度優勝は三枝さんで息子2人も優勝しています。女子は三連覇を含む五度優勝が最多で平野さん、故鈴木さんが四度優勝で続きます。

中郡地区別親善大会

平成3年より、中郡在住在勤者を大磯小学校地区、国府小学校地区、二宮小学校地区、山西小学校地区のどこに住んでいるか、どこで働いているかで分けてチーム戦をすることになりました。最初のみ1S6Wで2回目からは5Wに変更しました。その後19回目までは3Wで、20回目以降は3S2Wで行っています。

また、平成21年度より町外者など小学校地区がない方も登録クラブに所属していれば、参加できることになりました。なお、参加料が無料の大会として行っており、協会が賞品代と昼食代を補助しています。

西湘オープン高校生団体の部

平成11年より当時、二宮高校卓球部顧問であった種藤先生が、高校生の強化と、西相地区と他地区との高校生の交流を目的として、高校生の団体戦のオープン戦を開催することとなりました。毎年たくさんのチームの参加を頂き、2位トーナメントや3位トーナメントがあるのが魅力です。

今後の中郡卓球協会

参加した大会で試合がたくさんできるように、また参加賞も含め、

賞品もなるべく多くの人がもらえ、今日は楽しかったと思える中郡の大会になるようにしていきたいと思えます。また、大磯町卓球協会と二宮町卓球協会、中郡レディースへの補助と中学校を中心に卓球台の寄付をおこなっていますが、これからは、社会に貢献できる卓球協会を目指し、ユニセフ・国境なき医師団・震災を受けた地域への寄付も毎年おこなっていきたくと考えています。

現役員名

会長 小野寺正紀
副会長 西河雅章、牧田 悟
理事長 伊藤 努
副理事長 仲條幸敏
常任理事 脇幸子、金澤祐孝、原政江
小田真理、伊藤誠、角田高子
常松隆、斉藤ツネ子

歴代会長(数字は年度)

昭和57年〜昭和59年 山村広保
昭和60年〜昭和62年 大貫 忠
昭和63年〜平成24年 坂口博泰
平成25年〜現在 小野寺正紀

歴代理事長(数字は年度)

昭和57年〜昭和62年 坂口博泰
昭和63年〜現在 伊藤 努
原稿提出者名 伊藤 努